

北京市教育視察に参加して (6)

視察校の紹介の最後として、北京中学と北京陳経倫中学の 2 校を合わせて紹介しましょう。

まず、北京中学は、朝陽区政府が北京市政府の認可を得て 2013 年 9 月に設立した 12 年一貫の完結型学校のモデル校*です。小学校・中学校・高校・国際部の 9 つの分校があります。現在、5 つのキャンパスに分かれています。2025 年の統合をめざして新キャンパスの建設が進められています。高校の生徒数は 4000 名、それを 460 名の教師集団が支えており、その 60 %が M.A. や Ph.D.を取得しています。卒業生の 10 ~ 20 %がトップレベルの大学に進学しています。

建学理念として、①基礎教育の充実 ②創造的なアイデアの創出 ③国際的な人間育成、④知識と知恵のバランスのとれた学生を育成することを掲げています。教育的手法としては、「仁・知恵・勇気・喜び」を持った個人を育成し、様々な学びを通して生徒の総合的で自由な成長を促しています。

ここでもロボット実験室や図書館などの授業・施設見学の後、先生方との懇談を行いました。



次に紹介する北京陳経倫中学校は、1921年に桜美林学園(町田市)の創始者である清水安三先生によって設立された学校です。

当時、朝陽門外に住む貧しい生活状況にあった中国の少女たちを救済するために、清水先生が私財を投じて創設した「崇貞女子工読学校」が始まりです。紆余曲折を経て、1991年に現在の校名に変わりました。それは、香港の実業家であった陳経綸さんからの寄付金2700万元(当時の貨幣価値で約4億円)を元に校舎の大規模改修を行い、その功績を讃えて「陳経綸中学校」となりました。構内には学園の歴史を展示した校史館もあります。

モデル校として教育改革にも熱心に取り組んでおり、実験室やテレビ放送局など施設も充実しています。



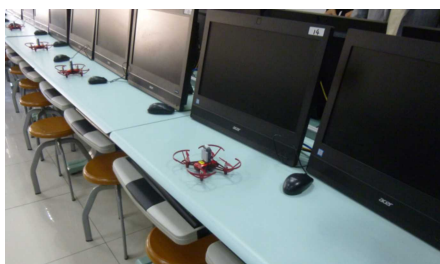
正門の表裏に2つの校名を示す



清水安三先生の胸像



教育改革を示す5つの特色



ドローンを使った授業も

*素質教育とは、従来の受験競争から脱皮し、生徒の持つ固有の能力と個別の学習速度に応じた多様な形態の教育をいう。これを判断基準としてモデル校の認定が行われます。

(つづく)
校長 石飛 一吉